

研究・調査報告書

報告書番号	担当
88	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Increased risk for suicidal behavior in comorbid bipolar disorder and alcohol use disorders: results from the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC). 双極性障害とアルコール使用障害合併による自殺企図リスクの増加: NESARC 研究	
執筆者	
Oquendo MA, Currier D, Liu SM, Hasin DS, Grant BF, Blanco C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Psychiatry. 2010 Jul;71(7):902-9.	
キーワード	
アフリカ系祖先群、飲酒、コホート研究、ヨーロッパ系祖先群、高血圧、発症	
要 旨	
<p>目的： 双極性障害は高率に自殺企図と関連している。また、アルコール使用障害も自殺行動の高リスクである。疫学研究においてこれらの合併が自殺行動の高リスクと慣例するかは検討されていなかった。</p> <p>方法： 2001年-2002年に NESARC においてインタビュー調査を実施された 43,093 の一般住民から、これまでに DSM-IV により双極性障害と診断されたことのある 1,643 人が同定された。評価は、AUDADIS-IV により行われた。DSM-IV によるアルコール使用障害（濫用または依存）の有無別に、双極性障害者における生涯自殺企図・自殺念慮の有病率を、カイ 2 乗検定・調整オッズ比および信頼区間により検討した。また、ロジスティック回帰分析を用いて、他の疾病が双極性障害者における自殺リスクに及ぼす影響を、アルコール使用障害の有無別に検討した。</p> <p>結果： 双極性障害の基準を満たす回答者の半分以上（54 %）がアルコール使用障害を報告していた。アルコール使用障害を有する双極性障害者は自殺未遂の大きなリスクであり、アルコール使用障害なし者と比べ、高い自殺企図リスクを示していた（調整オッズ比= 2.25; 95 %信頼区間、1.61 3.14）。また、ニコチン依存と薬物使用を合併しやすい傾向があった。ニコチン依存や薬物使用は、双極性障害者における自殺行動のリスクを増加させず、またアルコール使用障害を有する双極性障害者においてもさらなるリスクとはならなかった。双極性障害とアルコール使用障害の合併者は、多大の精神病理学的負担を有しているにもかかわらず、より重点的・集約的な治療を受けているというわけではなかった。</p> <p>結論： 自殺行動発生は、アルコール使用障害を合併した双極性障害者に多かった。双極性障害における自殺リスク低下のための介入においては、合併率が高く、また高リスクの合併症であるアルコール使用障害の有無を考慮する必要がある。</p>	